

イノベーション：R&D／事業開発／知財

NECの技術力

NECは長年の研究開発で培った技術力と知的財産を競争力の源泉と位置づけ、既存事業の高度化と新規事業の創出を推進しています。AI、セキュリティ、それらを支えるプラットフォームに関わる技術領域を重点分野として定め、市場の変化をとらえながら、研究開発から事業開発、製品・サービス提供までを一体的に進めることで、迅速な価値提供に努めています。当社はすでに、これらの領域で世界トップクラスの特許保有件数や論文採択実績、顔認証分野の世界的なベンチマークテストで複数回No.1評価を獲得^{*1}するなど、グローバルに認められた技術力を有しています。引き続き、景気動向に左右されることなく中長期的な視点で一定水準の研究開発投資を継続し、将来の社会価値創造を支える技術力の強化と新たな価値創出に取り組んでいきます。当社はこれらの強みを基盤として、2030中期経営計画で掲げるAIネイティブカンパニーへの変革と価値創造モデル「BluStellar」の拡大を推進していきます。

イノベーション創出のための人づくり・場づくり

イノベーション創出には多様な専門性を持つ人材と、その力を最大限に引き出す環境が不可欠です。NECは各地域の強みや知見を結集することで、グローバルな研究開発体制を実現し、研究者の約4割がグローバル人材となっています。また、イノベーションを社会価値に転換し、世の中に実装していくためには、新規事業開発や知的財産の専門人材も欠かせません。当社では、外部からの採用と社内での育成により各領域の専門人材の拡充を図るとともに、研究開発、知的財産、新規事業開発それぞれの機能の連携を強化しています。

加えて、優秀な人材が十分に力を発揮できるよう、研究開発環境の整備にも力を入れています。また、シリコンバレーのNEC Xでは、NECの人材と技術を核に、現地エコシステムと連携したオープンイノベーションを推進し、社会にインパクトを与える新たな事業の

創出を目指しています。また、異業種7社と連携した共創型R&DのジョイントベンチャーであるBIRD INITIATIVE（株）やCorporate Venture Capital (CVC) 機能、ビジネスコンテスト、日本国内で新たに立ち上げたスタートアップスタジオなどを通じて、社内外の多様な知見を集結し、新たな価値を創造していきます。

イノベーション強化に向けた人材獲得と育成はESGデータブック2026の人材開発プログラムに詳細を記載しています。

^{*1} 米国国立標準技術研究所 (NIST) による顔認証ベンチマークテストで

これまでにNo.1を複数回獲得
<https://jpn.nec.com/biometrics/evaluation/index.html>

※ NISTによる評価結果は米国政府による特定のシステム、製品、サービス、企業を推奨するものではありません。

^{*2} NeurIPS, ICML, ECML-PKDD, KDD, ICDM

^{*3} CVPR, ICCV, ECCV, ACCV, ICPR

^{*4} セキュリティ: ACM CCS, IEEE S&P, EuroS&P, USENIX Security, Crypto, Eurocrypt, Asiaticrypt, TCHES, FSE (2015–2024年実績)

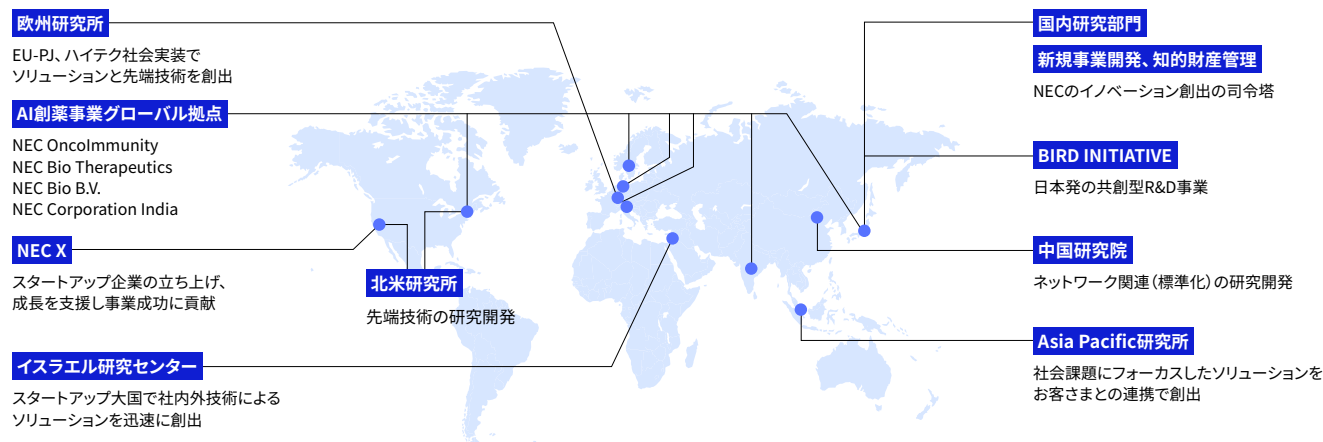
^{*5} 通信: OFC/ECOC等 (2025年12月時点)

^{*6} 出所: <https://jpn.nec.com/intellectual-property/topics/260122.html>

^{*7} [PCT] Patent Cooperation Treaty (特許協力条約)、2025年10月 (NEC調べ)

AI (含む生体認証)	機械学習	
	難関国際学会 ^{*2} 論文採択数	世界企業中11位
	映像・画像処理	
	難関国際学会 ^{*3} 論文採択数	日本企業中1位
セキュリティ	セキュリティ 難関国際学会	45件採択^{*4}
プラットフォーム 技術	光通信 難関学会 ^{*5} 論文採択	48年連続
	光コンピューティング Nature論文採択	4件
特許	企業の特許影響力のグローバル調査 Top 100 Global Innovators ^{*6}	15回連続選出
	生体認証、映像認識、分析・対処AI 国際特許累計出願件数 ^{*7}	世界No.1

グローバルの強みを活かし研究開発と事業開発の機会を拡大



イノベーション：R&D／事業開発／知財

1. 社会や顧客が求める新たな価値を実現するための研究開発機能

NECが注力すべき技術領域と定めたAI、セキュリティ、およびこれらを支えるプラットフォームに関わる技術の強化を通じて、社会やお客さまが求める新たな価値の創出に取り組んでいます。

AIは、人手不足や業務の高度化、生産性向上といった社会課題に対応するため、業務の自律化・効率化を実現するAIエージェントの研究開発を進めています。また、AIの信頼性を担保する安全性・倫理性の高度な管理技術を確立し、人とAIが協調して働ける社会を推進していきます。

セキュリティは、サイバー攻撃の高度化・巧妙化に対応するため、AIを活用した脅威の分析や、高度なインテリジェンス化により、業種ごとのリスク特性に応じた実効性の高いセキュリティ運用を支援する技術の開発を進めています。さらに、高度な情報操作リスクへの対処技術の開発を通じて、デジタル社会における信頼性の確保と情報基盤の健全な発展に貢献します。

プラットフォームは、経済安全保障の観点からも重要性が高まる光海底ケーブルシステム技術や量子暗号通信などのセキュアなネットワーク技術の研究開発を通じて、より信頼性と安全性の高い社会インフラの構築・維持に努めます。

当社では、これらの最先端技術を、当社自身を最初の顧客として自社で使いこなして知見を蓄えるクライアントゼロの取り組みに活用しています。当該取り組みを通じて得られた実証的な知見は、お客さまを未来に導く価値創造モデル「BluStellar」における製品・サービス群に組み込み、社会およびお客さまに対する新たな価値提供へとつなげています。

最先端技術を社内外で先行的に実装し、成功要因を抽出・分析・型化
実績に裏づけされた最先端DXを最速で実現



Column AI事業の成長を支える国内有数規模のAIスパコン

AIの活用拡大に伴い、AIモデルには高度な業務への対応力と運用コストの低減を両立することが求められています。NECは2023年にフルスクラッチの国産大規模言語モデル(LLM)「cotomi」を開発し、その後も専門領域に特化したモデルやAIエージェント向け機能の強化を進めてきました。こうした開発を通じて蓄積したノウハウにより、専門知識をコンパクトなモデルに凝縮し、高度な業務をリーズナブルなコストで実行できるAIの提供が可能になります。

また、NECがAIネイティブカンパニーへの変革を進めるうえで、自らAIを開発・活用し続けるための強固な基盤が不可欠です。

この考えのもと、NECはAI事業の成長を支える基盤として、2028年には自社保有するAIスパコンを増強し、現在の約3倍に拡大する計画です。研究開発からサービス提供までを支える国内有数規模のAI基盤を活用し、NECはAIネイティブカンパニーへの変革とAI事業の成長を加速させていきます。

2. 価値を提供するための事業開発機能

新規事業開発では、「仕掛けよう、未来。」をキーマッセージに掲げ、多彩なオープンイノベーションを通じて新たな価値の創出に挑戦しています。AIやデータ価値創造を中心とする領域で、NECがグローバルで強みを持つ技術をベースに、国内外のスタートアップやパートナー企業、行政、アカデミアとの共創を推進し、NECがこれまで培ってきた事業開発ノウハウを活かして新規事業を開拓しています。

■ 新規事業創出のマネジメント方針

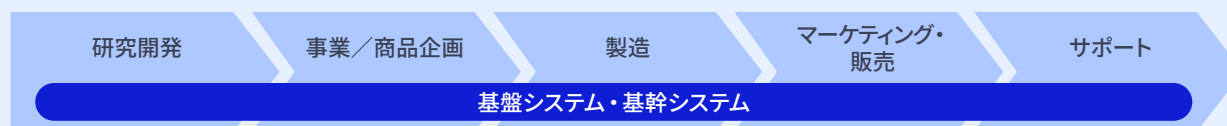
新規事業の多くは、国内外のさまざまなパートナーとの共創により生み出されています。事業開発はフェーズに応じて体系化されたプロセスと管理に基づいており、リスクを適切にコントロールしながら挑戦的な新規事業を育てています。現在は、金融サービス、研究開発、創薬、サステナビリティなど、AIとデータが大きな価値を生み出す領域で新規事業の創出に挑戦しています。事業化に際しては、社内事業化だけでなく、スタートアップやジョイントベンチャーの設立、NEC Xによるシリコンバレーエコシステムでの起業など、技術や事業の特徴に応じて最適なスキームを選択しています。また、新規事業創出で得たノウハウをコンサルティングサービスとしても提供し、さらなるシナジーの創出や共創の推進に取り組んでいます。

Column 全社の事業開発インフラとしての取り組み

新規事業の効率的・効果的な創出に向け、これまで培ってきたノウハウを全社の事業開発インフラとして整備しています。事業部門と連携し、新たなアイデアから事業創出に至るまでを加速する仕組みの整備や事業開発人材の育成に取り組むとともに、研究開発を含むイノベーション活動の可視化・ナレッジ化と、その活用を強化しています。これらを通じて、全社で新規事業開発を迅速に行える環境の構築を進めています。

事業開発事例

研究開発からマーケティングまで業務のAXを支援



AIが拓く次世代の研究開発

NECは、生成AIやAIエージェント技術を活用し、共創パートナーの研究開発の高度化を支援しています。その取り組みの1つとして、材料開発の効率化を支援する「材料探索ソリューション」を提供しています。膨大な論文や特許等の文献情報から有望な材料候補を探索するとともに、研究者の知見を学習したAIが有望な未知材料の物性を予測。従来は多くの時間を要した材料探索を大幅に短縮し、材料分野におけるイノベーション創出に貢献しています。

AIペルソナが拓く新たな顧客理解

NECは、独自AIと多様なデータを掛け合わせることで、企業のマーケティング変革を支援しています。「BestMove」は、消費者データをもとに、購買行動・購買意識を持つ高解像度なAIペルソナを生成することができます。これにより消費者インサイトの発見から施策立案、効果予測までを実行するソリューションです。データドリブンによる高精度な意思決定を通じて、顧客価値の向上に貢献しています。

イノベーション：R&D／事業開発／知財

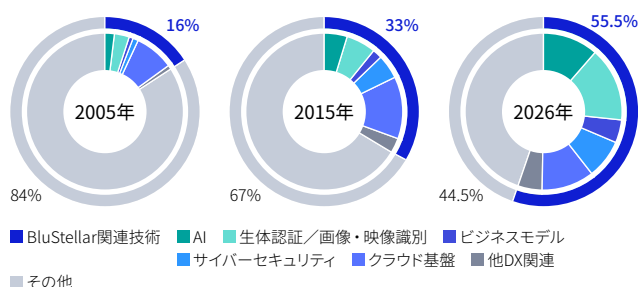
3. 知的財産活用による事業貢献

■ 知的財産戦略

NECは知的財産を経営上重要な無形資産と位置づけ、2030中期経営計画の達成に向け、主に以下に注力しています。

- ① “AIの社会実装”と“新たな安全保障の技術実装”に資するBluStellar関連領域等の特許ポートフォリオを強化^{*1}。海外事業拡大を見据え、全体としての外国出願率^{*2}を拡大^{*3}

成長領域への特許ポートフォリオのシフト(米国特許権)



- ② 技術移転等も含む多様な機会において保有技術の社会実装を推進するため、特許やノウハウ等の無形資産のライセンスや譲渡等の活動を推進。前中計期間の累積特許ライセンス収益は、その前の5年間で比べて2倍以上の伸長を実現。さらなる成長計画を推進中
- ③ 知財業務のDXを推進。“クライアントゼロ”を通じた社内実践で蓄積した知見・ツール・ノウハウをもとに、知財DXソリューションの社外提供を開始。また、アビームコンサルティング(株)が知財BPX^{*4}事業を展開。知財業務の負荷軽減や意思決定の高度化を通じ、日本の知財競争力向上を支援
- ④ 先進技術の普及を促進する国際標準戦略を推進。重要技術分野で、国内外の標準化委員会や政府委員会等での重要な役割を担い、主導的な役割を遂行

^{*1} <https://jpn.nec.com/intellectual-property/topics/260904.html>

^{*2} 日本公開およびPCT公開の件数のうち、外国出願(日本公開のうち、パリ優先出願およびPCT公開)を行った件数の割合

^{*3} 外国出願率：52% (2015年度公開) → 67% (2025年度公開)

^{*4} BPX：Business Process Transformation

■ イノベーションサイクルドライバーとしての知的財産活動

2025年度に策定したイノベーションサイクルのフレームワークを実践し、知的財産活動をそのドライバーとしてNECの技術・知見を社会価値に転換する取り組みを推進しています。

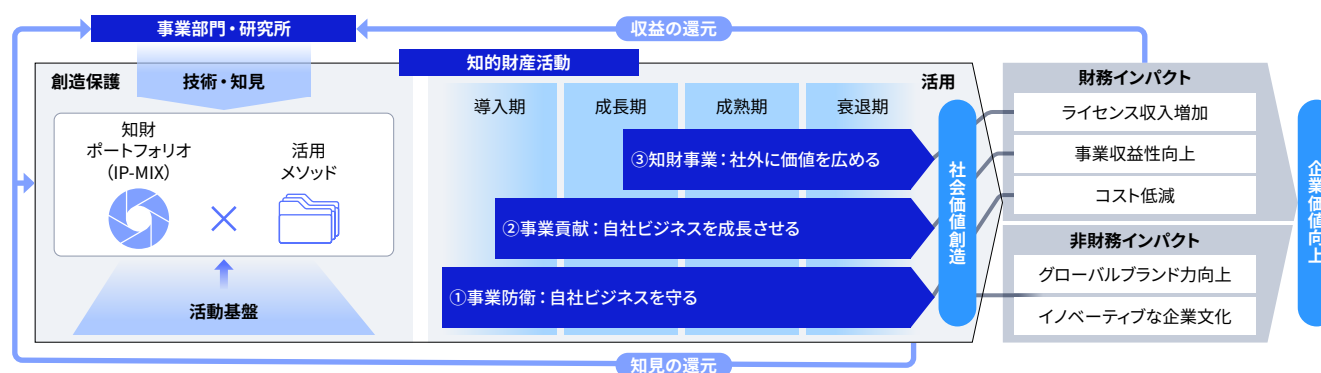
創造保護段階では、新技術や知見・ブランド等を知財権等により多面的に保護し、知財DXの社内実践による業務の高度化等の活動基盤がこれを支えています。

活用段階では、蓄積された活用メソッドを使い、知財ポートフォリ

オを事業ステージごとに繰り返し活用し、着実に成果を積み上げています。

- ① 事業防衛：競争優位性を維持し、他社権利侵害リスクの低減によるライセンス支出抑制により、コストを低減
- ② 事業貢献：BluStellarを含む成長事業の価値を最大化するため、知財を活かした支援を通じて事業収益性を向上
- ③ 知財事業：ノウハウ等も含む多様な知財ライセンスを推進し、ライセンス収入の安定成長を実現

知的財産の活用で得た収益と知見を事業や研究活動に還元することで、継続的な企業価値の向上に貢献しています。



Column 無形資産としてのブランドの活用

NECは、Purposeを起点に、すべての企業活動をブランド価値向上の機会ととらえ、無形資産であるブランドを経営に接続して、企業価値向上に活用しています。具体的には、チーフデザインオフィサー(CDO)を設置し、CEOの情報発信を中心に、BluStellarをはじめとするブランドの展開など、企業としてのコミュニケーションを高度化してきました。また、ブランドやデザインを知財として権利化・活用し、非財務に加え、財務の改善にも貢献しています。

これらにより、ブランドが高まり継続的に市場から選ばれることで、2030中計が目指す事業成長を支えています。

(注) 上記の取り組みは、2024年知財功労賞「特許庁長官表彰 デザイン経営企業」、2025年知財・無形資産ガバナンス表彰優秀賞を受賞

